

# もど子と人婦

第七卷第七號

大正六年七月五日

お舟のゆくへ

河は黒んで流れてる、

堤の砂は金の色。

兩手の岸に樹を列べ、

河は何時でも流れてる。

青い木の葉が浮かんでる、

池のお城が浮かんでる、

私のお舟が浮かんでる、

みんなのお家は何處にあら。

川は休まず流れてる

水車の小屋を通り抜け

谷をくぐつて下へゆき、

小山を越えて下へゆく。

川は流れて下へゆく、

百里も流れて行つたなら、

よその小さな子供等が

私のお舟を拾ふだろ。